

組合員をむすぶ情報誌

2023.8.7 No.62

コープグラフィティ

CO-OP Graffiti

伝えたいこと、読みたいこと…ひとつになるとええね。



いい塩梅ゼリー



材料(4個分)
 [A]・ストレートりんごジュース.....500cc
 ・寒天パウダー.....3g
 ・梅干し.....大1~2粒

作り方
 ① [A]を鍋に入れ沸騰させる。
 ② 梅干しをたたき、器に分け入れる。
 ③ ②へ①をそっと注ぎ冷やし固める。
 ④ 底の梅干しをほぐしながら、いい塩梅にしてください。

食のこま
 塩梅とは「塩と梅酢」のこと。
 食酢がまだなかった時代は、塩と梅を漬けた時に上がってくる梅酢を使って料理の味付けをし、塩と梅酢が絶妙なバランスだったことから「料理の加減がいい」という意味で「塩梅がいい」と言ったのが語源です。
 料理も五感をフルに使って作るので、舌や体に合うバランスに仕上がる『いい加減』となりやすいのです。
 味付けの濃いものを欲するときは、塩分というミネラルが必要なとき。料理の柔らかさ、おこげなどの焼き具合も、「排出したい」「乾かしたい」という体の声をキャッチして出来あがっているのかもしれない。
 日々の料理作りで毎日の体調を知り、いい塩梅に。

〈特集〉

第82回 通常総代会 開催報告.....	03
Q&A・理事会報告.....	10
2023年度 総代募集のお知らせ.....	11
クイズこたえをさがせ!.....	12



第82回 通常総代会

第82回 通常総代会 開催報告

日時 2023年6月19日(月曜日)

会場 一宮地場産業ファッションデザインセンター

理事長あいさつ

日々は商品のご利用をはじめ、事業運営や組合員活動などへの参加、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の発生から3年半が経過し、感染者の増加と減少を繰り返す中、政府はこの5月に感染法上の2類から5類に方針変更しました。常態化したマスクの着用や3密を避けるなどの行動様式も、以前の姿に戻りつつあります。

一方で、コロナ禍では外出自粛などでインターネット環境を活かした生活が一気に進み、生協の事業においても多くの会議がオンラインでの開催となり、業務も大きく様変わりしました。効率面でのメリットと同時にコミュニケーションの希薄化をもたらしました。

いよいよ以前と同様の開催が可能となるため、これまで大切にしてきた直接の交流の機会を充実させるとともに、オンラインも併用し、さまざまな活動をより活発に進めていきたいと考えています。

また、昨今は、ロシアとウクライナの戦争の影響や円安などの影響を受け、エネルギーや資源などあらゆる分野で物価が上昇し、私たちの暮らしは層の厚さを増しています。その他にも自然災害の甚大化や発生頻度の増加が顕著な気象変動問題、廃棄物などをはじめとする環境問題、脱原発を柱とするエネルギー問題、少子高齢化、貧困格差の拡大といった諸問題や、遺伝子組み換えやゲノム編集といった食に関わる問題など、暮らしに関わる問題は山積しています。

そんな中、組合員さんからの生協への期待は更に大きく高まるものと思われまます。私たち役員は、組合員の皆さんの願いの声に応え、より良い、平和な暮らしに貢献できるように今後も努めていく所存です。引き続き、ご支援ご協力を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

理事長 船橋 拓行

もっと! ずっと! を私たちの暮らしに

一宮生協はまだまだ進化し続けます!
 中期3ヶ年計画 2022~2024年

食
 -たべる-



あんしん

もっと美味しくずっと安心

- ★『自然派Style』ブランドの浸透を図り、商品を育んでいきます。
- ★国産原料を中心とした安全・安心な商品の安定供給に努め、国産オーガニック商品の利用を促します。
- ★食の安全に関する情報を収集し、分かりやすく発信して、「食」の課題について組合員と共に学び合います。
- ★組合員が利用しやすい商品づくりに努め、組合員の利用のまとまりで、より高い品質と適正な価格を守ります。
- ★生産者の想いを組合員に伝え、組合員と共に生産者を支え続けます。

豊
 -ゆたか-



みらい

もっと優しくずっと未来へ

- ★環境に配慮した持続可能な暮らしを目指し、組合員と共に学ぶ機会を充実します。
- ★循環型社会を目指し、環境配慮商品の利用を促します。
- ★少子高齢化の課題について組合員と共に考え、生協に期待される支援活動を模索し、思いやりを大切にした活動の充実を図ります。



協
 -かなう-



つながり

もっと出会い ずっと繋がる

- ★さまざまな交流の機会にさまざまな人が出会い、「誰もが参加できる組合員活動の場」、「想いをカタチにしていこう」を充実します。
- ★組合員・生産者・生協の顔が見える産地直結の関係を大切にし、お互いの想いを共有できる場を充実します。
- ★組合員の声を大切にしたい事業活動に努め、地域で頼られる生協を目指します。
- ★生協職員が働きやすく、やりがいを感じられる職場環境を整えることにより、組合員への対応の質と満足度の向上に取り組みます。

2022年度 事業報告承認の件

2020年1月に発生が確認された新型コロナウイルス感染症は、3年間に亘り感染の拡大と減少を繰り返しましたが、2022年度の終盤にはようやく終息への兆しが見えはじめ、経済や社会活動は徐々に正常化に向けて動き出しました。この間のコロナ禍における生活ではマスクの着用や3密を避けるなどの行動様式が常態化し、また、さまざまな場面でオンラインの活用が大きく進むなど、生活様式にも多々の変化を生じさせました。こうした状況下では、オンラインの活用による便利さや効率化が進んだ一方で人と人とが直接に集う形のコミュニケーションの機会に大きな制約を受けました。また、2022年度は世界の情勢不安や急激な円安の進行などの影響を受け、エネルギー価格をはじめ、食品を含む多岐に亘る物価の上昇に見舞われ、日常の暮らしへの影響と同様に事業にも経費の増大が負担となりました。そうした中で2022年度は、中期3ヶ年計画の1年目として、計画に掲げた3ヶ年方針と組合員によってまとめられた21世紀ビジョンの内容に留意して、その実現、充実に取り組みしました。また、第81回通常総代会で定款変更を行ったことにより三重県の北東部を新たに事業エリアとすることになり、2023年4月からの供給事業をスタートすることを目指して1月より準備を開始しました。アイチョイスグループとして愛知県、岐阜県、静岡県、三重県の4県で事業活動が進められるように生協連合会アイチョイス、並びにあいち生協、生協アイチョイス岐阜と共に連携して取り組みを進めました。コロナ禍からWithコロナへと移行する社会や暮らしに適切に対応を合わせながら、組合員組織の拡大や組合員活動の見直しなど、組合員と役職員が一体となって事業や活動の充実に取り組みしました。

1 組合員活動

(1) 主な取り組み



1 こーぶ委員会

2022年度は4支部16委員会、55名のこーぶ委員が活動しました。

2 専門委員会

「商品普及」「子育て支援」「シニア支援」「環境配慮」のテーマごとに4委員会、12名の専門委員が活動しました。
1994年に理事会の諮問機関としてスタートした専門委員会は、幾度も活動の位置づけを見直しながら継続してきましたが、現在の位置づけに沿った活動も継続が難しくなったことから、2022年度をもって専門委員会の位置づけは廃止することとなりました。

3 支部

新型コロナウイルス感染対策を講じ、開催規模は縮小とはなりませんが組合員や地域の皆さんが交流できる場として「ふれあい広場」を開催しました。

4 スタディークラブ

生協を通じた組合員の繋がりを活かし、関心ごとが同じ組合員同士でテーマを決め、自主、自発的に活動する「スタディークラブ」は10クラブが発足し、41名の組合員が登録して活動しました。

5 fan×funクラブ

2021年度までの「商品モニター」の活動は、2022年度より愛好家の「fan」と、楽しむ意味の「fun」を掛け合わせた「fan×funクラブ」にネーミングを変更し、12名の組合員が登録して活動しました。

6 特技登録

組合員どうしの「教えあい・学びあい」を目的に16名の組合員が、料理や暮らしの知恵など15種類に亘る分野で特技を登録しました。

7 託児サポーター

子育て真っ最中の組合員が積極的に組合員活動に参加できるように、お子さんを託児するサポーター制度に11名の組合員が登録しました。

8 サークルメイト

暮らしを豊かにするために生協を通じた組合員の繋がりを活かし、4つのグループが登録し、組合員の18名と員外の10名の合計28名が活動しました。

9 LPAの活動

4名の組合員が、組合員のライフプランに関わるアドバイスとしての情報を「LPAホット広場」として機関誌などに提供を行った他、くらしの見直し講演会の開催やくらし川柳を募集しました。

10 その他、組合員を対象とした主な活動・情報発信

・組合員どうしの交流を深めて「食」や「商品」への関心を高めることを目的に、料理教室や生産者交流会など15企画実施しました。
・一宮生協のさまざまな活動を広めることを目的に、「食・豊・協」をテーマに「一宮生協ふれ愛フェスタ」を開催しました。
・公式LINEアカウントでは、生産者からのメッセージ動画やレシピ動画、生活情報やイベント・キャンペーン告知など、組合員に知ってほしい情報をタイムリーに配信しました。

11 行政や諸団体との連携を活かした活動

・一宮市民活動団体「一宮スマホ倶楽部」と連携したスマホ教室の開催や、稲沢市、一宮市が主催する消費者啓発イベントにブース出展しました。
・交通事故を減らす取り組みとしてマイカー共済の引受元の全労災が実施している「7才の交通安全プロジェクト」に参加し、愛知県交通安全協会一宮支部へ70本の横断旗を寄贈しました。
・組合員が家庭でできる社会貢献として、新たに稲沢市社会福祉協議会と連携し使用済み切手・書き損じハガキ等の回収をスタートしました。寄せられた切手・ハガキ等は稲沢社協を通じて愛知県内の福祉活動に役立てられました。

※急激な新型コロナウイルスの感染拡大に伴いやむなく4企画を中止

2 事業数値

(1) 組合員人数、利用の状況(2022年4月1日～2023年3月31日)

1 仲間づくりの状況と組合員登録人数

・愛知県内では1年間で4,025名の加入があり、一方で1,581名の脱退がありました。
・事業エリアの拡大に伴い1月より三重県北部エリアの仲間づくりをスタートし、538名の加入がありました。
・2022年度は全体で2,982名の実増となり、組合員登録人数は29,593名となりました。

2 利用人数

・1年間の利用人数は累計725,854名(計画比98.4%)となり、1企画あたりの換算では計画に対して214名を下回る結果となりました。

3 組合員の一人あたりの平均利用点数

・一人あたりの平均利用点数は11.81点となり、計画として見込んだ11.90点をわずかに下回りました。

4 一人あたりの平均利用金額と商品1点あたりの平均単価

・平均利用金額は5,577円となり、計画で見込んだ5,615円に対してわずかに下回りました。
・1点あたりの平均単価は472円となり、計画として見込んだ472円と同額となりました。

3 事業計画として取り組んだこと

基本方針 生協活動…中期計画1年目の課題と併せて、組合員との繋がりをより強めるために組織運営の強化を図ります。

(1) 組合員活動

1 各種の組合員活動の活性化に取り組みました。

・こーぶ委員会の活動では20のエリアで委員会の発足を目標しましたが19エリアから16委員会の発足に留まり、全エリアでの発足は

できませんでした。

・専門委員会、スタディークラブ、fan×funクラブ、特技登録、託児サポーター、サークルメイトなどの活動は、それぞれにコロナ禍に応じた対策をしながら継続して活動しました。
・活動2年目となるスタディークラブは、毎月メール配信するスタディークラブ通信で各クラブ間での情報共有を図りました。

(2) 組織活動

1 組合員のためになる組織活動の充実を目指しました。

・コロナ禍により、組合員活動は中止や延期など大きな制約を受けましたが、一方でオンラインによる学習会や見学会など、感染防止対策としての創意工夫を凝らして活動を進めました。

(3) 組合員と取引先・生産者との交流

1 交流の機会の充実に取り組みました。

・新型コロナウイルスの感染対策を講じ、開催規模を縮小することにはなりませんが、生産者と組合員が直接交流できる場を企画しました。また、参加できなかった組合員に向けて生産者やメーカーの協力を受けて動画配信などを行いました。

(4) 組合員参加による事業運営

1 事業への組合員の声の反映に取り組みました。

・これまで組合員と役職員が集って意見交換する機会として「組合員の集い」を開催してきましたが、より多くの組合員のみならずに参加していただけるように「コープdeおしゃべりカフェ」と気軽にイメージに変更し、組合員理事と職員が中心になって企画を運営し5会場で開催しました。
・総代を対象に総代会議を開催し、事業状況や重点課題への取り組み内容について情報を共有する機会を設けました。また、今期より参加できない総代にも書面による参加を呼びかけ、より多くの総代と意見交換を行う機会をつくりました。
・組合員機関誌「Coop・Graffiti」を昨年度までの年4回の発行から隔月発行に変更し、情報発信の充実を進めました。

2 民主的な運営の励行に取り組みました。

・総代とこーぶ委員、専門委員へこーぶ通信を活用した情報の共有や、コープdeおしゃべりカフェや総代会議の他、支部協議会や専門委員会連絡会などの場で意見交換を継続しました。
・コロナ禍の影響を考慮し、実出席とオンライン出席での形で開催しました。出席できない方からも意見や質問を受けられるように当日の資料と併せて「知りたい・伝えたいカード」を全総代に送付して書面での参加も呼びかけ、前年より参加者が増える結果に繋がりました。

(5) 第3次中期計画(2022年度～2024年度)に沿った活動の実施

1 中期計画に沿った取り組みを進めました。

・中期3ヶ年計画「もっと!ずっと!私たちの暮らしに」の周知と浸透を図るために、組合員機関誌「Coop・Graffiti」の他、パネルやポスター・チラシなどの媒体を活用して組合員や取引先・諸団体への広報に取り組みしました。
・2022年度より名称を変更して開催したコープdeおしゃべりカフェでは、中期3ヶ年計画のテーマである「食(たべる)・豊(ゆたか)・協(かなう)」を題材にして企画を組み立て、各テーマに掲げた課題について商品の試食や生産者との交流を通じ、参加者と情報交流を深めました。
・中期計画1年目として、計画内容に沿った活動や事業運営に努め、「環境」や「食」をテーマに講演会なども開催しました。

基本方針 事業推進…4,500名の組合員拡大を進め、供給高40億8,100万円を目指します。

(1) 供給高40億8,100万円、昨年比104.8%に向けて

1 供給高計画の達成に向けて取り組みました。

・仲間づくりと組合員の安定利用、世帯利用額の向上に取り組みましたが、仲間づくりの遅れと1人当たりの利用金額が計画を下回ったことから、供給高は40億706万円、計画比98.2%(前年比102.9%)となり、前年の実績は超過できたものの計画を下回る結果となりました。

・利用人数についても、計画比98.4%(前年比103.2%)と、前年の実績は上回ったものの計画を下回る結果となりました。
・組合員サービスの充実では、ECサイトをより利用しやすくリニューアルを行った他、11月よりカタログでの企画商品数を約80アイテム増やし充実させました。

2 供給事業の強化に取り組みました。

・国産有機農産物やオーガニック食品と共に、主食となるお米やパンの利用普及に取り組みました。
・国産有機農産物の利用促進に繋げるために、生産者紹介や産直の取り組みチラシを配布し、農産物の利用普及に取り組みました。
・「自然派Style」の商品の価値について情報を発信し、組合員への周知と利用結集に取り組みました。また、地区担当者が自信を持っておすすめ活動ができるよう、商品の試食や学習会をセンターごとに取り組み、知識の向上に努めました。
・3月に開催した「来て・見て・体験! 一宮生協ふれ愛フェスタ」で、自然派Style紹介ブースを設置し、商品の展示や試食などを通じて自然派Style商品の価値について知っていただく機会を設けました。連合会への加盟を機会にスタートさせた一宮生協独自企画(えーね)は取引先との協議を経て3月4回企画をもって終了しました。

3 供給事業における運動課題に取り組みました。

・「誰もが国産有機農産物を食べることができる社会」づくりを目指す取り組みを連合会と会員生協と一緒に進めました。
・有機農業の普及を目的とする有機の学校「ORGANIC SMILE」へ組合員と共に支援に取り組みしました。2022年度の賛助会員への呼びかけには236人から延べ301口の申込みをいただき、前年を上回る支援の輪が広がりました。
・農業に頼らない栽培や自然豊かな多様性のある環境づくりを目的としてスタートしたビオトープ米の取り組みは今年で2年目となり、引き続き一宮生協から理事が代表して現地視察などを行いました。
・有機農産物生産者紹介やアニマルウェルフェア、OKシードマーク、ネオニコチノイド系農薬を減らす取り組みなどのチラシを作成し、組合員と「食」に関する諸課題について、アイチョイスの取り組みの情報共有を図りました。
・2023年2月25日に東京都で開催された「第17回GMOフリーゾーン全国交流集会」に役職員がオンラインで参加し、遺伝子操作食品の現状についてのパネルディスカッションや各団体からのGMOフリーゾーンの取り組みに関する報告を受け、直近の状況や代表的な取り組みについて確認しました。

(2) 仲間づくり 加入4,500名 組合員人数29,111名 昨年比109.4%に向けて

1 組合員と共に組合員の拡大を進めることに取り組みました。

・組合員満足度の向上に取り組み、組合員からのお知り合いの紹介による仲間づくりを進めました。紹介目標を750人として掲げましたが、581人に留まりました。

2 多くの方に一宮生協(アイチョイスグループ)を知らせ、広めることに取り組みました。

・アイチョイスグループ全体の認知度を上げていくことを目的として、テレビCMに取り組みました。今年度の認知度調査では、テレビCMを放映する以前の17.0%から44.7%へと認知度は上昇し、テレビCMの効果を確認することができました。また、YouTubeなどにも動画広告を出して認知度の向上を図りました。
・商品を試してから加入したいとの声に応え、おためしボックスの取り組みをスタートさせました。

3 仲間づくりを進めるための体制の充実に取り組みました。

・拡大パートナーの採用が計画どおりに進められない状況やコロナ禍の影響などによる欠員状態が継続し、年間を通じて営業体制が整いませんでした。一方で、非対面とするためのコロナ感染対策の目的とオンラインの特性による効率性を活用して、オンラインでの

加入説明を進めたことでインターネットからの加入者を増加することができました。

- ・小牧営業所を開設して、東部エリアの拡大が効率よく行える体制を整えました。
- ・三重県に事業エリアを拡大することを見据え、東部営業所を本部営業所に統合して業務効率の向上とコールセンター業務の充実を図りました。
- ・本部営業所では加入説明の対応件数を増やすために休日の稼働を開始しました。
- ・戸別訪問の委託会社(シンクロナシティ)と契約を結び、戸別訪問の体制を強化しました。

(3) CO・OP共済の推進

- ・新規の契約目標を700契約として掲げ、組合員にCO・OP共済のおすすめ活動に取り組みました。
- ・CO・OP共済には、1年間で新規の申込み契約609口、満期継続の契約が159口という実績でした。CO・OP共済を集中して呼びかけようと予定した期間に新型コロナウイルス感染症の影響で地区担当者の欠員が発生したことから、計画どおりの取り組みが行えませんでした。
- ・CO・OP火災共済とマイカー共済の広報では、カタログと一緒に広報チラシを配布して組合員への広報を行い、CO・OP火災共済の契約が33口、マイカー共済の契約が19口の契約という実績でした。

基本方針 生協運営…組合員の声を具体化できる組織体制を構築します。

(1) 役職員を中心とした組合員の声に応える運営

- ・組合員からの意見や要望はCS会議などで課題化して実現に向けて取り組み、実施できた内容は地区担当者ニュースなどで発信しました。
- ・組合員どうしの交流会や組合員と役職員との意見交換の機会として、総代会議と「コープdeおしゃべりカフェ」を開催し、参加組合員からは一定の評価を受けましたが、想定した参加人数まで参加者を増やすことができませんでした。
- ・組合員理事の位置づけと役割の再整理について、機関会議や支部活動以外の事業運営や活動との関わり方についての方向性の協議を下期よりスタートさせました。

(2) 法令遵守の徹底と内部統制の整備

- ・ハラスメントのない職場環境にするため、アイチョイスグループ全体の役職員を対象として学習会が行われ、ハラスメントに対して正しい認識が持てるように、具体例を通じて基礎知識を学びました。
- ・一宮生協が独自に定めている行動規範を全職員に周知し、その遵守に一体となって取り組みました。
- ・連合会が開催する内部統制会議に担当者が参加し、各種マニュアルや規程などの見直し協議を継続して進めました。
- ・個人情報関連では、個人情報保護方針を12月に改定を行った他、個人情報保護に関する学習会を1月に全職員(定時職員含む)対象に実施し、2月には組合員理事による個人情報の取り扱いに関する監査を部署ごとに実施しました。
- ・役職員で安否確認訓練を定期的に実施しました。また、この際にアイチョイスグループ全体で災害対策本部の模擬訓練を行い、いざという時の備えについて確認しました。

(3) 環境に配慮した事業運営

- ・環境省が推奨しているエコアクション21(一般財団法人 持続性推進機構)の環境マネジメントの取り組みを2022年度も継続し、二酸化炭素と廃棄物の排出量の抑制や、水資源の使用量の抑制といった各種の目標値の達成と持続可能な社会を目指して、環境負荷低減に留意した事業運営を進めました。また、2022年度は更新審査を受審する年となり、更新審査において「A判定」の評価を受けることができ、2年間の認証・登録を受けることができました。
- ・エコアクション21推進委員会を定期的に開催して、環境負荷への低減に向けた改善に取り組みました。特定の事業所において消費電力量が増加していたため、施設設備の改修を行い、抑制対策を講じました。

(4) 労働環境と人材育成に留意した運営

- ・職員の家庭内での新型コロナウイルスの感染拡大により、他部署からの配送業務の応援対応や、配送支援を担う定時職員の人員体制が整わなかったことで、一時的に時間外労働時間が増加しました。
- ・職員が働きやすい職場環境づくりに取り組みました。また、職場環境の形成を目的としたセルフケアの実施や、労働安全衛生法に基づく職場運営にも取り組みました。
- ・労働災害[0]を目指しましたが、3件の労働災害を発生させてしまいました。労働災害を発生させない職場環境とするため、定期的に開催している安全衛生委員会にて情報共有を図り、職場全体で予防対策を検討した他、安全な職場環境づくりに向けて全職員の意識向上に努めました。
- ・生協職員としての人材育成を目的に、日本生協連の企画する通信教育を8名の職員が受講しました。
- ・職員の自発的な学習支援を目的として資格の取得を奨励してきました。2022年度には支援対象の資格の種類を増やすなどして制度を見直し、職員2名が延べ3つの資格を取得し、資格取得支援制度の活用につながりました。

(5) 社会や地域に根ざした生協づくり

① 地域に開かれた、身近な存在となるための広報と活動を進めました。

- ・地域に開かれた、身近な存在となるための広報として、キッチンスタジオを活用した取り組みの情報発信をLINEにて行いました。
- ・「お家で眠る切手・ハガキで社会貢献」の取り組みを行い、多くの組合員から寄せられた切手やハガキは、稲沢市社会福祉協議会に寄贈しました。
- ・マイカー共済で企画している「7才の交通安全プロジェクト」の賛同団体として取り組み、横断旗70本を愛知県交通安全協会一宮支部に寄贈しました。
- ・愛知県ユニセフ協会が12月に設立されました。一宮生協も団体賛助会員として登録し、愛知県内の賛同団体と一緒に設立に向け取り組みを行いました。
- ・一宮市が推進する「一宮SDGsパートナー制度」に登録し、登録企業や諸団体を対象としたSDGs(持続可能な開発目標)に関する学習会に参加しました。
- ・一宮市地域包括支援センター 萩の里の支援を受け、認知症サポーター養成講座を役職員の13名が受講し、あいち認知症パートナー企業に登録されました。

② 連合会と会員生協(あいち生協・生協アイチョイス岐阜)との情報共有による取り組みを進めました。

- ・2022年6月に開催された、生協連合会アイチョイス第12回総会にて2030年ビジョンが承認を受け確定しました。パンフレットを制作し、グループの全組合員に8月に配布がされビジョンと取り組み内容について広報を行いました。
- ・ビジョン推進会議に役職員が参加し、2025年までのアクションプランの作成と担当組織の分担を決めて、アイチョイスグループ全体で推進する体制を整えました。
- ・アイチョイスグループの事業活動エリアの行政に対して「ゲノム編集トマト苗の受け取り拒否を求める要望書」を送付し、ゲノム編集されたトマト苗を受け取らないように働きかけを行いました。
- ・2023年1月に鈴木宣弘氏を講師に迎え「日本の食料危機 ～食と農を守るために私達(生協)ができること～」の講演会がアイチョイスグループの役職員向けに開催され、日本の食の安全を守るために生協として何をすべきかを学びました。
- ・組合員サービスの向上を目指し、ぷらす便と追加注文の導入に向けた協議会を発足させ、2023年度からサービスの開始ができるように協議を行いました。
- ・2023年度の方針説明会が2月に開催され、各組織の役職員が参加し、連合会及び会員生協、関連会社の2023年度の取り組み方針について確認を行いました。

【来期の課題】

- ・アイチョイスグループ全体で策定した2030年ビジョンの達成に向けて、2025年度までのアクションプラン達成を見据えグループ全体で取り組みを進めます。

- ・連合会及び会員生協で共通の課題を共有し、社会や地域への貢献活動を模索します。

③ 生協ネットワーク21との連携を継続しました。

- ・前年度から継続していたネオニコフリー学習会(第3回)が4月に開催されました。また、ネオニコフリーのリーフレットを共同で作成し、コープ委員と総代のみなさん、新規の組合員に配布しました。
- ・ネオニコフリーのホワイトボードアニメーション第2弾が3月に完成しました。
- ・3年ぶりに実開催された定例会に役職員6名で参加し、講演会や各生協の取り組み報告を受けたあと、参加生協の組合員理事どうしで組織活動などの情報交換や交流を行いました。
- ・事業では、専務理事交流会や組織担当者会議などに担当役職員が参加し、事業運営などの取り組み事例について情報交換や連携を進めました。

④ 防災への取り組みを進めました。

- ・連合会と会員生協で連携して、各種の防災への備えの充実を図りました。
- ・甚大な災害の発生に備えて、2021年度から3年計画で各事業所に必要となる器具備品や非常食などの備蓄品を整備していくため、2年目となる2022年度には必要な非常食の補充を行いました。

⑤ 高齢者見守りネットワークの継続と幅広い支援の充実を目指しました。

- ・行政と連携した高齢者見守り活動の協定の取り組みを継続しました。
- ・新たに弥富市と蟹江町で高齢者見守り活動の協定を締結しました。

(6) 配送センターの配置の見直しと事業エリアの拡大

- ・配送センターの配置見直しについては、連合会の新要冷セットセンターが2025年9月頃の竣工予定で準備が進められていることを受け、稲沢センターの使用法を含んだこの先の配送センター構想について、アイチョイスグループ全体での最適化を踏まえた協議をスタートさせました。
- ・2023年4月からの供給開始を見据え、三重県北部エリアでの仲間づくりを1月から開始しました。また、配送業務はグループ子会社の「あいネットサポート」に委託することを決定し、委託業務契約を締結しました。



第3号議案 2023年度 事業計画案、及び収支予算案、役員報酬案承認の件

2022年度は、2021年度から策定の準備を進めてきた第3次中期3ヶ年計画の1年目として、また、これまで継続して掲げてきている21世紀ビジョンと共に組合員の願いに沿った事業運営を進めました。新型コロナウイルス感染症は感染症法の5類に変更され、ようやくアフターコロナの暮らしを迎えました。コロナ禍で大きく様変わりした私たちの生活様式も感染症の発症以前の日常を取り戻すこととなりますが、感染には引き続き留意しながらこの間に普及したオンライン環境を活用するなどして、供給事業や組合員活動も柔軟な姿勢で対応を進めます。また、ウクライナとロシアの戦争をはじめとする国際平和の問題は国際間で予断を許さない状況が広がり、地球温暖化を起因とする様々な環境問題、諸物価の上昇、食の安全・安心に関わる問題や国内自給率の低下、少子高齢化や貧困格差の拡大など、私たちの暮らしを取り巻く環境には様々な問題や課題が山積し、先々の暮らしへの不安が増えています。こうした諸問題への対応やより良い暮らしを実現していくためには、組合員のみなさんで知恵や力を寄せ合っていくことがより重要になっています。2023年度も一宮生協がふだんの暮らしに役立つ組織であり続けられるように、組合員と役職員が一体となって事業や活動を充実させていきます。

■2023年度 事業計画案

I. 2023年度活動方針(案)

- 1. 生協活動…中期計画の2年目の課題への取り組みと、組合員との繋がりを活かした組織運営の強化を図ります。
- 2. 事業推進…5,200名の組合員拡大を進め、供給高43億9,000万円を目指し、経営基盤の強化を図ります。
- 3. 生協運営…アフターコロナを見据えた事業環境に留意した業務運営と、組合員の声を大切に組織体制で供給事業と組合員活動を進めます。

II. 2023年度 事業計画(案)

1. 組合員どうしや組合員と役職員との繋がりを活かした組織運営の強化を図ります。

新型コロナウイルス感染症は発生から3年半が経過し概ねの終息を迎えました。社会活動の平常化に伴いコロナ禍における宅配事業への急激な支持の高まりは落ち着く一方で、食品や電気料金をはじめとする諸物価の上昇は消費者の暮らしと共に生協の事業にも大きな影響が生じています。また、コロナ禍で急速に進んだオンラインの普及は、時間や費用面での効率や合理化といったプラス面を生み出した一方で、実際の交流場面の減少や人々の価値観やコミュニケーションのあり方にも大きな影響を生じさせています。運営面においては、コロナ禍以前のような活発な組合員活動が進められるように、日常の社会活動の平常化に合わせてオンラインの活動も活かしながら、人と人が直接に集える企画の充実に加え、経営面においては、2023年度は厳しい事業環境となることが予測されることから、組合員へのサービスの充実を進めることによる供給事業の伸展と経費管理の強化を進めることによる経営基盤の強化に努めていきます。

(1) 組合員活動

① 各種の組合員活動の活性化

- ・この先のアフターコロナへの状況を見据え、直接に集う企画とオンラインの有効な活用を併せて、楽しく有意義な企画により多くの方が参加できる組合員活動を工夫して進めます。

(2) 組織活動

① 組合員のためになる組織活動の充実

- ・「食」の安全・安心に関わるテーマや環境に関わるテーマなど、暮らしに関わる情報の発信や学びの機会の充実に取り組みます。
- ・生協連合会アイチョイスとその会員生協(あいち生協・生協アイチョイス岐阜・一宮生協)が共通して掲げる運動課題に沿った企画を実施します。

② 行政や外部組織との連携の強化

- ・ふだんの暮らしに関わる組合員に役立つ消費者啓発活動を充実します。
- ・行政や諸団体と連携して、地域貢献と福祉活動を充実します。

(3) 組合員と取引先・生産者との交流

① 交流の機会の充実

- ・“自然派Style”の商品をはじめ、農産品や商品のこだわりへの理解と共感を広めるため、取引先や生産者との交流の機会を実際に集う企画やオンラインを活用した企画を充実します。

(4) 組合員参加による事業運営

① 事業への組合員の声の反映

- ・組合員から寄せられる声に応える運営を継続します。
- ・組合員と、組合員理事、及び各部のマネージャーによる意見交換、情報共有する機会と位置づけている「コープdeおしゃべりカフェ」に、より多くの方が参加されるように改善、工夫します。

② 民主的で開かれた組織運営の実践

- ・組合員と役職員との情報共有の充実を図るため、各種の媒体を活用した情報の発信の強化に取り組みます。

Q&A

商品をお届けする際やコールセンター、こーぶ委員会報告書などで一宮生協の商品や運営についての質問や意見をまとめました。

Q 組合員活動「スタディークラブ」と「サークルメイト」の活動の違いは何ですか？

A 「スタディークラブ」は組合員が組合員同士の繋がりを活かして自主的に活動するグループを生協が支援する活動です。生協が指定する活動ジャンル・活動テーマの中から活動内容を自由に選定して活動し、年度末に提出いただく活動報告と会計報告が理事会で確認されると、年間上限2万円の助成金をうけることが可能です。



一方、「サークルメイト」は組合員が1名以上参加される地域のグループであれば登録することができ、生協の施設を無料で使用できる活動です。一宮生協の理念に反していなければ活動内容は自由ですが、活動に対する補助はありません。



自由ですが、活動に対する補助はありません。

Q 「一宮生協公式LINE」と「アイチョイス公式LINE」の違いは何ですか？

A 一宮生協公式LINEでは、イベント情報や生産者・メーカーさんからのメッセージ動画、オリジナルレシピ動画など暮らしに役立つ情報を毎週定期配信しています。

一方、アイチョイス公式LINEはアイチョイスネット(インターネット注文サイト)のID連携をすることで、ワンタップ(組合員番号やID入力が不要)でアイチョイスネットにログインすることが可能になったり、配送状況の確認や注文履歴など組合員さんご自身の情報を簡単に確認することが可能など、アイチョイスネットがより使いやすくなりました。ぜひこの機会にご登録ください。

「設立の情報を配信♪」



一宮生協公式LINE

「注文や履歴など確認できる!」



アイチョイス公式LINE

理事会報告

第11回 4月24日

■住所不明組合員の自由意志脱退手続きに関する規約の一部変更について

2020年度までは出資金経過報告書の郵送対応により所在確認を兼ねてきていましたが、経過報告書の発行を停止したことから、今後はデータベース上の長期休止区分に登録されている組合員を対象に利用再開案内を送付することによる所在確認を行う形に変更することが確認されました。

■2022年度のスタディークラブへの活動助成金の支給と2023年度の登録について

2022年度に活動した10クラブに対して、総額168,467円を支給することが決定されました。また、2023年度は8クラブが継続し、新たに4クラブの登録申請があり、合計12クラブの登録とすることが確認されました。

■第82回通常総代会への附議議案と議案書の作成について

総代会への附議議案は全6議案とすることが確認されました。事業報告と事業計画(案)のそれぞれの記述内容について確認が行われ、第12回理事会では決算関係書類などを含むすべての内容を最終確定することが確認されました。

■独自企画(えーね)の2022年度の供給高実績と供給剰余について

2022年度の供給高は63,372,194円、供給剰余は4,879,248円となったことが確認されました。2020年6月から企画してきた一宮生協の独自企画(えーね)は、3月4回企画をもって終了したことが報告されました。

第12回 5月15日

■第82回通常総代会への付議議案の最終確認について

第82回通常総代会の議案内容について最終確認が行われ、総代会議案書の内容を確定しました。

事業数値 (5月末締め)	
●供給高	年度累計688,578(千円) 計画比98.3%、前年比109.7%
●仲間づくり	組合員数人30,013人 (累計加入人数974人 累計脱退人数338人)
●年間累計	平均利用組合員人数14,330人
●1人あたり1週の平均利用点数	12.01点
●1人あたり1週の平均利用金額	5,624円

CO-OP 一宮生協の総代に なってみませんか!?

総代立候補は **こち** から!



2023年
9月8日(金)
締め切り



生協はみんなの暮らしを守り、よりよくしていくことを目的に、組合員の参加で運営します。「組合員の願い」を実現するために、総代として積極的な運営参加にご協力をお願いします。

そもそも生協って?



生活視点から生まれる声を組合員さんと協同で実現できる組織です。

生協は略称で、正式には「生活協同組合」といいます。生協は消費者1人ひとりが出資することで組合員となり、協同で運営・利用していくことが決められている組織です。「こんな商品を利用したい」「こんなシステムがあれば便利」など、生活視点から生まれる声を、組合員さんと協同で実現できる民主的な組織です。

生協は法律上どんな組織?



「消費生活協同組合法(生協法)」で認められた組合員さんが主役の法人です。

目的をもった人が集まり、その意思によって運営されるのが「組織」です。生協は「消費生活協同組合法(生協法)」により、組織として認められた法人です。組合員は、生協の事業・活動が自身の思いや願いに合っているかを判断、意見する権利を持っています。生協法は生協を「自発的な生活協同組織」と位置づけており、「出資」「利用」「運営」という3つの組合員参加で事業が継続されます。

生協の三原則



総代って?



総代はひとことで言えば、組合員の代表です。

組合員は出資口数に関係なく、1人1票の議決権を持ち、総会を通じて一宮生協の運営に参加することができます。しかし、2万人を超える組合員全員で総会を行うことは事実上不可能なため、消費生活組合員法第47条、定款51条の定めに基づき、組合員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会とされています。総代会は、総代選挙規約に基づき選出された総代が出席し、組合員の代表として議案審議をします。

1年間の活動スケジュール

10月 総代任期開始

これから1年間
よろしくお願ひします!!

11月 第1回 総代会議

今期上半期の取り組み状況についての報告や、生協のしくみや総代の役割について解説いたします!

2月 第2回 総代会議

第3四半期までの取り組み状況についての報告や、来期の事業計画の検討について総代さんとの意見交換をします。

5月 第3回 総代会議 (総代会事前説明会)

『議案書』の内容を事前に理解していただくための大切な会議です。総代会前に、当日では聞ききれない疑問など、詳しく聞くことができる場です。

6月 通常総代会

今年度の取り組みや事業の報告、来年度の事業計画などに、「賛成」「反対」の意思を示していただく場です。
*当日は出席できなくても、「書面議決書」や「委任状」での参加もできます。

10月 総代任期終了

1年間お疲れさまでした。
ありがとうございました!

Quiz

こたえをさがせ!

問題

「生協の三原則」とは?

下の3つの中から、正しいと思うものを選び、
下の書き込み用紙に番号を書いてください。

① あんしん・みらい・つながり

② 出資・利用・運営

③ 食(たべる)・豊(ゆたか)・協(かなう)

ヒント

本紙のどこかに答えがあります! ヒントは11ページ!

正解者の中から抽選で5名様に生協商品をプレゼント!

下の書き込み用紙にご記入いただき、切り取って注文書と一緒に
通い袋に入れて配送日にお出しください。

書き込み用紙

締切
8月31日(木)

■今号で良かった記事、お好きな記事にチェックをつけてください。(複数回答可)

- 表紙 レシピ
- 特集 第82回 通常総代会開催報告
- Q&A 理事会報告
- 2023年度 総代募集のお知らせ クイズこたえをさがせ!

■今号の感想をお聞かせください。

- ご記入くださった個人情報は、一宮生協個人情報保護方針に沿って取り扱います。
- 「書き込み用紙」は、注文書と一緒に「通い袋」に入れてください。



名前		
組合員番号	クイズ の 答え	

組合員活動推進室行き

一宮生活協同組合

TEL (0586) 45-3232 (代)

FAX (0586) 45-9126

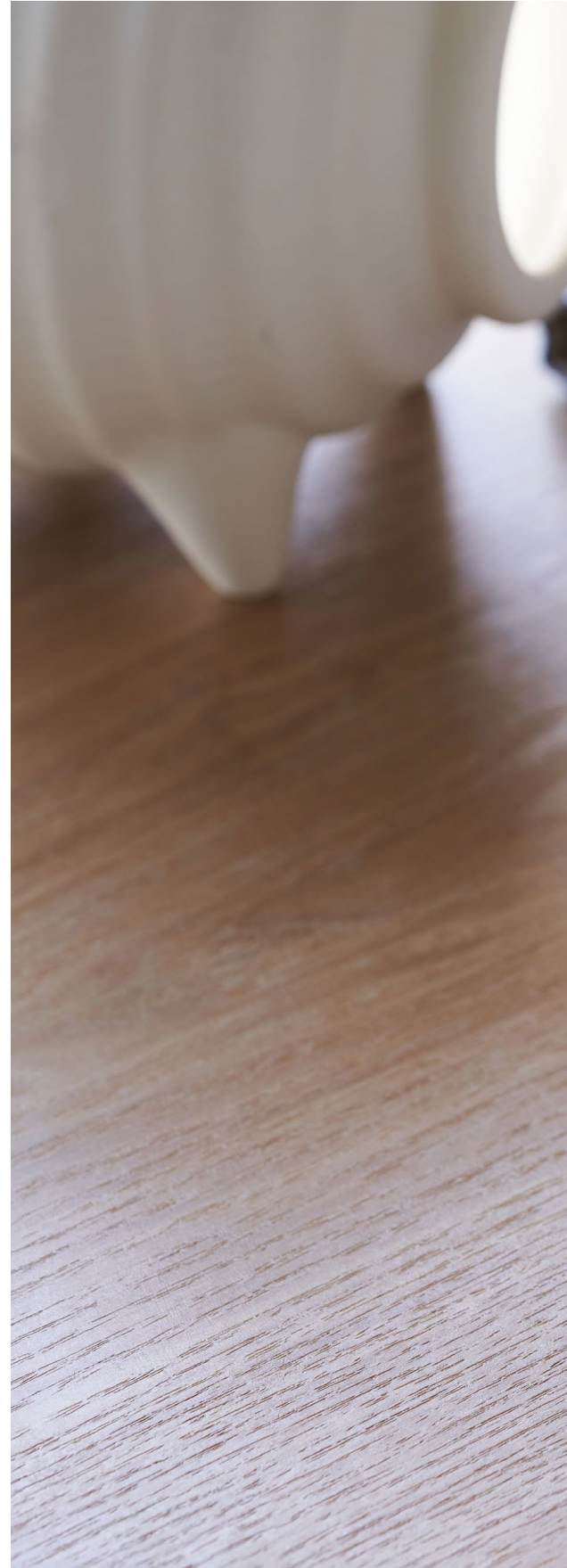
<https://ichoice-coop.com/ichinomiya-coop/>

一宮生協
LINE公式
アカウント



エコアクション21
認証:登録番号 0000072

一宮生協は環境省の推奨する環境
経営システムエコアクション21の
認証事業所です。



キ
リ
ト
リ